

会報

No. 10

前林協

MAERINKYO

\*\*\*\*\* 編集・発行所 \*\*\*\*\*

〒371-0035

群馬県前橋市岩神町四丁目17番3号

前橋国有林森林整備協会

TEL:027(235)5150

FAX:027(235)5147

URL:<http://www.maerinkyo5150.com/>E-mail:[maerin5150@yahoo.co.jp](mailto:maerin5150@yahoo.co.jp)

福島県 三春町 「三春滝桜」

## ◇ 記事の内容 ◇

- 平成26年度補正予算
- 平成27年度林野庁関係予算 **4.9可決・成立**
- 前林協 情報交換会の開催
- 森林分野CPD認定 人材育成研修会開催
- 林業事業者との意見交換会
- 人事異動



## 平成26年度 林野庁関係補正予算

新たな経済対策 824 億円

(農林水産省全体 2,781 億円)

(単位：百万円)

項 目	補 正 追 加 額		
	非 公 共	公 共	計
森林整備加速化・林業再生対策	54,630		54,630
木材需要拡大緊急対策	2,570		2,570
森林・林業人材育成対策	325		325
治山事業・森林整備事業		10,501	10,501
治山事業		3,095	3,095
森林整備事業		7,406	7,406
山林施設災害復旧等事業		14,356	14,356
計	57,525	24,857	82,382

(参考) 計数は、四捨五入のため合計とは一致しない場合がある。

森林整備加速化・林業再生対策	木造公共建築物・CLT製造ライン・木質バイオマス利用施設等の整備、間伐など自伐林家を含めた多様な担い手による地域の創意工夫に基づく取組を総合的に支援
木材需要拡大緊急対策	展示施設の整備、展示会の開催など住宅分野等における地域材の利用促進、木製家具の輸出促進、CLT等新たな木質部材・工法等の開発・普及の加速化等を支援
森林・林業人材育成対策	作業実態等の理解を図るためのトライアル雇用等の実施により、現場技能者の確保・育成を一層推進
森林整備事業〈公共〉	地球温暖化防止のための間伐等の森林施業や路網整備を推進し、国産材の安定供給体制の構築や災害に強い森林づくりに貢献
治山事業〈公共〉	集中豪雨等における被害が住宅・公共施設等に及ぶ恐れのある地域における山地災害対策等を推進

## 平成27年度 林野庁関係予算

# 決定!

### 1 総括表

区 分	平成26年度	平成27年度	対前年度比
	当初予算額	概算決定額	
	百万円	百万円	%
公 共 事 業 費	191,267	191,830	100.3
一般公共事業費	181,293	181,856	100.3
治山事業費	61,570	61,570	100.0
森林整備事業費	119,723	120,286	100.5
災害復旧当事業費	9,974	9,974	100.0
非 公 共 事 業 費	100,328	98,533	98.2
総 計	291,595	290,363	99.6

(注) 1 上記のほか、農山漁村地域整備交付金及び山村活性化支援交付金に、林野関係公共事業を措置している。

2 復旧・復興対策は、下記2に整理

3 計数は、四捨五入のため合計とは一致しない場合がある。

### 2 東日本大震災からの復旧・復興対策(東日本大震災復興特別会計計上)

区 分	平成26年度	平成27年度	対前年度比
	当初予算額	概算決定額	
	百万円	百万円	%
公 共 事 業 費	57,663	43,402	75.3
非 公 共 事 業 費	10,723	6,874	64.1
合 計	68,386	50,276	73.5

[平成27年度 予算の概要]

## 森林整備事業・治山事業(公共)

【181,856(181,293)百万円】  
 (平成26年度補正予算 10,501百万円)

### 対策のポイント

- ・ 施業の集約化を図り、間伐、路網整備等を推進するほか、森林吸収量の確保に向けた条件不利地等における間伐や低コスト造林を推進します。
- ・ 山地災害等の防止・軽減に向けた総合的な治山対策による「緑の国土強靱化」を推進します。

### 〈背景／課題〉

- ・ 我が国の豊富な森林資源を循環利用し、安定的な木材の供給体制の構築に資するとともに、地球温暖化防止対策としての森林吸収量3.5%（の確保に向け、施業の集約化を図り、間伐、路網の整備等を推進する必要があります。
- ・ 集中豪雨・地震等による激甚な山地災害やシカ、病虫害等による森林被害が各地で頻発しており、国民の生命・財産を守るための治山対策等を推進する必要があります。

### 政策目標

- 森林吸収量の算入上限置3.5%(平成2年度比)の確保に向けた間伐の実施  
 (平成25年度 から平成32年度までの8年間の年平均:52万ヘクタール)
- 周辺の森林の山地災害防止機能等が適切に発揮された集落の増加  
 (5.5万集落(平成25年度)→5.5万集落(平成30年度))

### 〈主な内容〉

- 1 森林整備事業 120,286(119,723)百万円  
 (平成26年度補正予算 7,406百万円)
- (1) 施業の集約化を図り、間伐やこれと一体となった路網の整備、主伐後の再造林等を推進します。搬出間伐を進めるため、搬出材積の要件(10m<sup>3</sup>/ha以上)を見直します。
- (2) 奥地水源林等であって、所有者の自助努力によっては適正な整備ができない森林において公的主体による間伐等の森林整備を推進するとともに、鳥獣被害対策を推進します。
- 2 治山事業 61,570(61,570)百万円  
 (平成26年度補正予算 3,095百万円)
- (1) 集中豪雨・地震等に起因する激甚な山地災害の発生リスクの増大を踏まえ、荒廃山地の復旧整備と溪畔林の整備等を一体的に実施する流木災害防止対策など、山地防災力の強化に向けた取組を推進します。
- (2) 火山噴出物の堆積地域における局地的豪雨による大規模荒廃地の復旧に新規着手するなど、民有林直轄治山事業による復旧整備を実施します。
- (3) 南海トラフ地震等により発生が想定される津波に対する多重防御の一つとして「粘り強い海岸防災林」の整備を推進します。また、病虫害による機能低下を防止するための海岸防災林の保全を推進します。

# 平成27年度の林野公共事業

## 現状と課題

### 森林吸収源の確保

- 森林吸収量3.5% (90年度比) を目指す。
- COP19で2020年度における3.8% (05年度比) 削減目標を表明。森林吸収源については、2.8%以上を担う必要。
- 年平均52万haの間伐等の森林吸収源対策の着実な推進が必要

### 森林資源の循環利用の推進

- 人工林資源が本格的に利用期を迎える。
- 資源の循環利用の推進により林業を成長産業として確立。
- 施業の集約化、路網整備による生産基盤の強化が必要

### 国土強靱化への対応

- 集中豪雨や地震等による激甚な災害が各地で発生。
- 南海トラフ巨大地震や集中豪雨等による大規模災害に備えた国土強靱化が課題。
- 崩壊地等の復旧整備に加え、事前防災・減災の観点からの対策の強化が急務

### 震災復興対策

- 東日本大震災による被害。海岸防災林の復旧・再生、放射能汚染への対応が必要

## 平成27年度予算概算決定の内容

豊富な森林資源を循環利用することと地球温暖化を防止するための間伐等の森林施業や路網の整備等の着実な実施等により林業の成長産業化を実現。  
気候変動への適応策の一環として災害に強い森林づくりを進めることで「緑の国土強靱化」を実現。

### 森林整備事業

～地球温暖化防止など多面的機能発揮に向けた森林整備の推進～

- ・ 森林の多面的機能の発揮を図りつつ資源の循環利用を通じて林業を成長産業として確立していくため、施業の集約化や路網整備により生産基盤を強化し、間伐等の森林整備を推進。
- ・ 森林経営計画の区域計画の導入(平成26年度～)により施業の集約化を推進。
- ・ 直接支援事業について、撤出間伐の推進に向けて、撤出材積10m<sup>3</sup>/ha以上の要件を果直し。
- ・ 奥地水源林等であって、所有者の自助努力によっては適正な整備が期待できない森林において公的主体による森林整備を推進。

### 治山事業

～山地災害等の防止・軽減に向けた総合的な治山対策の推進～

- ・ 集中豪雨・地震等による山地災害等の防止・軽減のため、荒廃山地や荒廃危険山地の復旧整備、海岸防災林の整備等を推進。
- ・ 山地災害発生リスクの増大を踏まえた流木災害防止対策の強化。
- ・ 局地的豪雨等により発生した大規模荒廃地の民有林直轄治山事業による集中的な復旧整備の実施。
- ・ 津波に対する多重防御の一つとして「強い強い海岸防災林」の整備を推進。

### 農山村地域整備交付金事業

- ・ 機能が低下した森林の回復等を進め森林吸収源の確保を図るため健全で多様な森林づくりを推進するとともに、南海トラフ巨大地震等切迫する自然災害の発生リスクを踏まえた効果的な予防治山対策を推進。
- ・ 治山・林道施設に係る点検・診断・更新等のメンテナンスサイクルの構築を推進。
- ・ 花粉症対策苗木に対する需要を喚起するための花粉発生源対策促進事業を実施。

### 復旧・復興事業(森林整備・治山)

- ・ 海岸防災林の復旧・再生を推進するとともに、放射性物質の影響により整備が進めがたい人工林等において、公的主体による間伐等を引き続き推進。

## 成果

地球温暖化防止への貢献

林業の成長産業化の実現

緑の国土強靱化の実現

震災からの復興再生

## 情報交換会 の開催



林野関係予算や新たな森林・林業の取り組み等々について、会員の皆様にも理解を深めていただくとともに、当協会員相互の連携と親睦を深めるため、1月26日前橋市石倉町のホテルサンダーソンにおいて会員多数の参加を得て開催されました。

高山会長挨拶のあと、志田関東森林管理局長から、

開会に当たり一言ご挨拶申し上げます。前橋国有林森林整備協会の会員の皆様におかれましては、日頃より国有林における造林や素材生産など国有林野の管理経営を行う上で実行部隊として森林の公益的機能の発揮や木材の安定供給などに大変大きな貢献をして頂いているところでございます。この場をお借りして改めて感謝を申し上げます。

森林・林業・木材産業を巡る最近の情勢を見ても、人工林の多くが本格的な利用期を迎えております。木材需要の拡大、木材生産の増大というものを通じて林業の成長産業化を図る

ことが地方再生を実現する上でも極めて重要な課題となっております。このため林野庁におきましては、新たな木材需要の創出に向けまして、中高層建築物等への利用が期待されるCLTなど、新たな製品・技術の開発・普及に取り組みますとともに公共建築物への地域材利用の促進、需要者ニーズに的確に対応した国産材の安定供給体制の構築を進めるほか、シカの食害等野生鳥獣被害への効果的な対策の推進等を図って行くこととしております。

関東森林管理局におきましても、国産材の安定供給に向けシステム販売の効果的な活用を進めるとともに、地球温暖化防止に向けた森林吸収源対策として、間伐に加え、主伐・再造林による森林の若返りに積極的に取り組むこととしております。また、本年4月には国有林野事業が一般会計に移行して3年目に入りますが、国有林と民有林とが一層の連携強化を図るべく、民有林との林産物安定供給システム協定の普及や森林共同施業団地の設定等を通じた施業集約化や伐採・造林の一貫作業システムなど新たな技術導入にも前橋国有林森林整備協会の会員の皆様方はじめ関係者の皆様と連携し取り組んで参りたいと考えております。



志田関東森林管理局長の挨拶

本日は限られた時間ではありますが、森林・林業の再生に繋がる有意義な情報交換会となりますことを、そして、前橋国有林森林整備協会及び会員の皆様方の益々の活躍とご発展を祈念し簡単ではありますが、私のご挨拶とさせていただきます。本日は最後までよろしくお願い致します。

とご挨拶を頂きました。

次に、寺川森林整備部長から、①平成26年度林野庁関係補正予算、平成27年度林野庁関係予算の概要 ②森林・林業・木材産業の現状と課題 ③森林吸収源対策、今後の主伐・再造林の検討について情報提供されました。小野森林整備課長からは、関東局における苗木生産要請の状況、岩井資源課長からは、複数年契約による実施予定、造林・生産事業の技術提案書作成の留意点について、渡邊企画官から請負事業等災害発生状況等の説明があり、その後、意見交換が行われました。



# 森林分野CPD認定の人材育成研修会が開催される

関東森林管理局森林林業技術等交流発表会は、各地域の試行的な取組によって得られた新たな技術や知見等を多くの関係者が共有し、得られた成果を広く周知すること、国有林野の管理経営や民有林における普及・定着に資することに努め、もって地域林業の再生に寄与することを目的として毎年開催されており今年60回目となります。

発表者は、森林管理局・署・センター等職員から14課題、関東整備局・県職員から4課題、大学・高校から4課題の22課題が平成27年2月19日～20日にかけて関東森林管理局大会議室において開催され、森林分野CPDプログラムに認定されたことから当協会に所属する多くのCPD会員が最新の林業技術を学び、地域林業の活性化に役立てようと聴講した。



3月7日(土)

群馬県林業技士会(会長…是松雅巳)では、平成26年度研修会を群馬県公社総合ビル東研修室において、

群馬県林業試験場 中山 さち氏による「竹の生態と林地侵入の現状と対策」、NPO法人竹取物語 本多 良助氏による「竹林整備の実践と竹の活用」について講演会を行った。

近年、里山にある多くの人工林で竹の侵入が見られ、林業や環境の面から大きな問題となっている。このため、各地で侵入した竹の取扱や森林整備をどのようにしていくか、色々な対策が検討されているが、また、一般化している状況になり、研修会では、竹の林地侵の現状や竹林整備のこれからの方向について、技士会員に混じって森林分野CPD会員も一緒に学んだ。



3月9日(月) 栃木県日光市安川町にある日光市総合会館において、関東森林管理局主催による「日光地域におけるニホンジカ被害対策講演会」が行われ、県・市、事業体、猟友会、NPO法人、森林分野CPD会員など関係者約百人が聴講した。

独立行政法人森林総合研究所の小泉 透氏からは、「きちんとシカを獲る」と題して現在静岡県富士山麓で行っているシカの捕獲を基にした講演を頂きました。

宇都宮大学小金澤 正昭教授は「日光におけるシカの増加と森林生態系への影響、その現状と課題」と題して、日光白根山におけるシラネアオイの採食の現状や日光地区におけるシカの増加原因、今後の課題、問題点等々を、栃木県林業センターの丸山 哲也研究員は「日光地区における新たな捕獲手法の試み」と題して、誘導式くりわなによる捕獲を紹介して頂きました。また、環境省日光自然環境事務所森川 久所長から「日光国立公園におけるニホンジカ対策について」これまで環境省が行ってきた取組等が紹介され、休憩後、意見交換会が行われ、参加者から、奥日光の湯元スキー場周辺では、シカによる食害の被害が深刻で希少植物が減少し絶滅の危機にあるので、地元でシカを知っている人たちの意見を十分取り入れて駆除を積極的に取り組んでほしいなどの意見が出された。

年度末を控えた2月24日午後1時30分から関東森林管理局大会議室において、管内の事業者が参加した「林業事業者との意見交換会」が澤井森林整備課長補佐の司会で行われた。

主催者側を代表して、寺川森林整備部長から日頃から事業実行を通じて、国有林野事業それから関東森林管理局が大変お世話になっておりまして、この場をお借りして御礼申し上げます。

今月初めに平成26年度補正予算が決定し、平成27年度予算が今国会で審議中でありますが、この年度末の時期に顔を合わせて日頃から皆様が仕事を進めていく上での疑問等をお聞かせ頂き、また、我々は最新の情報を提供するという形で意見交換を行い、今年度から来年度への準備ということで本日進めさせて頂きたいと思えます。特に、これから問題になることが「担い手の確保」でありまして、皆様方が正に林業再生のための「担い手」でありますので、お互いルールを守りながら長いお付き合いをさせて頂きたいと思えます。本日はどうかよろしくお願ひ致しますと開会の挨拶があり、引き続き、

① 関東森林管理局の重点取組事項 ② 平成27年度の林野庁関連予算について説明があった。

## 林業事業者との意見交換会



岩井森林資源課長からは、① 国有林の森林整備 ② 森林施業の展開方向 ③ 総合評価落札方式入札参加における留意事項について 小野森林整備課長からは、① 低コスト造林等への取組 ② 苗木需給見込みについて 渡邊企画官からは①平成26年度国有林間伐推進コンクルの概要 ② 国有林の請負事業における労働安全確保について最新の情報提供がなされた。



寺川森林整備部長のあいさつ

休憩を挟み意見交換が行なわれ、参加した方々から、① 事業成績評定点の内容を公表してほしい ② 素材生産発注に伴う歩止まりほどの程度見込んでいるのか ③ 山元中間土場での販売量を増やしてほしい ④ 発注が広範囲となっているので、現場監督員の活動範囲から、地域毎に分割して発注してほしい ⑤ 苗木の所要量を各署ごとに公表してほしい ⑥ コンテナ苗、エリートツリーについてもと情報が欲しい等々の意見が次々と出され予定された時間をオーバーした意見交換となりました。





〔協会関係〕

▽代表者変更  
村上林業協同組合

代表理事 阿部功

〔関東森林管理局関係〕四月一日付け

▽森林管理局

総務企画部

部長 小森野脇  
総務課長 功正  
企画調整課長 太郎

計画保全部

専門官(契約適正化担当) 高松忠  
保全課長 啓太  
治山課長 男

森林整備部

自然遺産保全調整官 岡本良  
森林整備課長 雅人  
監査官(除染・分収林担当) 星野二  
資源活用課長 健行

企画官(技術開発担当) 山内宏  
企画官(供給戦略担当) 谷本道  
企業官(供給戦略担当) 則裕

▽森林管理署等

福島森林管理署

地域林政調整官 藤元信  
総括事務管理官 齋藤一  
総括治山技術官 森誠  
支署長 川村一  
署長 樋口昌

白河支署  
会津森林管理署

森林技術指導官 坂高英  
総括森林整備官 本橋明

南会津支署

磐城森林管理署

総括事務管理官 山田久  
次長 藤昭  
森林技術指導官 勝雄  
総括事務管理官 友次  
総括治山技術官 金浩

棚倉森林管理署

次長 三枝和  
森林技術指導官 弘英

日光森林管理署

次長 梁取弘  
森林技術指導官 益和

塩那森林管理署

次長 井上鉄  
森林技術指導官 高木昭

群馬森林管理署

次長 益上博  
森林技術指導官 中園登

利根沼田森林管理署

次長 高木昭  
森林技術指導官 入山紀

中越森林管理署

次長 飯島行  
森林技術指導官 山崎久

下越森林管理署

次長 佐藤義  
森林技術指導官 藤原弘

村上支署

次長 飯島善  
森林技術指導官 富田善

上越森林管理署

次長 田中裕  
森林技術指導官 田中裕

森林放射性物質汚染対策センター所長 澤正樹

坂高英 樋口昌 川村一 森誠 齋藤一 藤元信

上澤元明 澤正樹 永尚 澤正樹 田中裕 相田二 山田二 富田善 飯島善 桐原弘 佐藤義 高木昭 入山紀 山崎久 飯島行 土田弘 鳴子博 益上博 井上鉄 高木昭 中園登 古川登 益上博 入井和 梁取弘 三枝和 佐藤弘 金浩 井友次 高勝雄 山田久 藤昭 伊男晃

協会の主な動き

- 1月9日 CPD認定 森林林業中央研修会 (東京都)
- 1月26日 前林協 情報交換会 (前橋市)
- 2月9日 那珂川森林計画区の管理経営に関する意見交換会 (大田原市)
- 2月19日 CPD認定 関東森林管理局森林林業技術等交流発表会 (前橋市)
- 2月20日 林業技術者との意見交換会 (前橋市)
- 2月24日 第3回関東地区原木流通協議会及び原木安定供給研修会 (前橋市・渋川市)
- 2月25日 全国国有林造林生産業連絡協議会理事會 (東京都)
- 2月26日 合法木材事業者セミナー (東京都)
- 2月27日 CPD認定 群馬県技士会主催研修会 (前橋市)
- 3月7日 CPD認定 日光地域における二ホンジカ被害対策講演会 (日光市)
- 3月9日 全国原木流通協議会事業活動報告 (東京都)
- 3月27日

今後の予定

- 5月21日 5月の予定 全国国有林造林生産業連絡協議会定期総会 (東京都)
- 5月24日 第69回群馬県植樹祭 (嬬恋村)
- 5月25日 大間々林業協同組合第33回通常総会
- 5月26日 前林協 第1回理事會 (前橋市)
- 未定 磐城林業協同組合第17回通常総会
- 未定 甘楽林業協業組合通常総会
- 未定 奥久慈林業協同組合第16回通常総会
- 未定 沼田森林業協同組合第42回通常総会

6月の予定

- 6月9日 前林協 安全祈願祭 (総社神社)
- 未定 前林協 第16回通常総会 (前橋市)
- 未定 群馬県技士会総会
- 未定 奥久慈林業協同組合安全大会
- 未定 いしかわ林業協同組合・有限会社大須賀林業・白栄林業企業組合合同安全衛生大会
- 未定 磐城林業協同組合安全大会

編集後記

平成27年度予算も成立し、地拵・植付等の造林請負事業や森林環境保全整備事業などの入札が執行され、契約が済みますと、私たち協会の山の仕事も本格化していきます。職場環境は、自然相手の厳しい作業環境でありすが、働く人々の安全と健康の確保は、労働者本人、家族にとつて最もかけがえのないものであり、何にも増して尊重されるべきものです。

ともかくこの一年、みんなで注意喚起や基本動作の徹底、ゼロ災運動を中心にした労働災害防止に積極的に取り組み、無事故・無災害で作業を終えるようみんなで頑張りましょう。

